

中谷 聡 (なかやさとし)

「石の中を見たい」という問いから始まった「時のカプセル」シリーズ。

内と外は凸凹の関係でありながら、どちらが内で、どちらが外か、見る者を想像の世界に誘う。原石を二つに割り、中をくり抜き、二つの石を再び元に戻してカプセルにする。削岩機であけた穴の一本一本の線が、私と石との対峙した時を刻んでいる。くり抜かれた石の中は確かに存在していた。再び合わされたカプセルの中で、私が石と過ごした時間と空間と記憶を内包して…。

(中谷)

1959年、長野県生まれ。1981年、信州大学教育学部美術科卒業。2003年、新制作展・新作家賞。05年、富嶽ビエンナーレ展・大賞（静岡県立美術館 / 静岡）。11年、愛知県立芸術大学大学院修了。17年、中谷聡作品展—時のカプセル（辰野美術館 / 長野）。18年、あさごアートコンペティション（あさご芸術の森美術館 / 兵庫）。22年、UBE ビエンナーレ現代日本彫刻展 模型入選（ときわ湖水ホール / 山口）、枕崎国際芸術賞展（枕崎文化資料センター南溟館 / 鹿児島）。23年、愛知県立芸術大学退任記念中谷聡展（茅野市民ギャラリー / 長野）。



中谷 聡 《時のカプセル・F》2011年